

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783

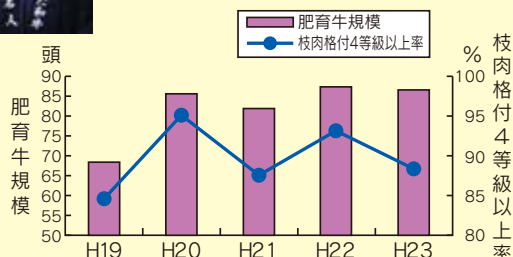
株式会社 Moimoiファーム



従業員とともに毎月、経営改善対策を検討

山賀 治彦氏 (にいがた和牛肥育名人)

高い肥育技術で規模拡大を達成



株式会社 佐渡乳業



クリーンミルク生産農場数の拡大
トキパック牛乳(原料:同農場産の生乳)の販売

魚沼市自給飼料生産組合



汎用型飼料収穫機による飼料用稲の収穫

〈優秀畜産表彰会で優秀賞を受賞した4事例の取り組み〉

目次

〈特集〉がんばる畜産と消費拡大の取り組み

- ◆ 優秀畜産表彰会受賞事例が決まる! …… (2)
～いずれも本県の畜産振興に貢献～
- ◆ 全国和牛能力共進会で1等賞を受賞! …… (4)
～5年に1度の和牛オリンピック開催～
- ◆ にいがた和牛肥育名人が上位独占! …… (4)
～第57回新潟県肥育牛求評共励会～
- ◆ 「にいがた和牛」の消費拡大の取り組みを
紹介します。 …… (5)
 - ・「畜産フェスタ2012」に参加
 - ・うまさぎっしりにいがた和牛フェア[冬の陣]を開催
 - ・にいがた和牛消費拡大大会を開催

- ◆ 飼養衛生管理の状況について …… (6)
～家畜伝染病予防法に係る飼養衛生管理基準の遵守状況～
- ◆ 声のコーナー …… (7)
 - 「同志とともに」
酪農経営:佐渡市 信田 和彦
 - 「牛飼いを始めて」
肉用牛経営:阿賀町 渡辺 俊行
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより …… (8)
長岡市:菅畑にいがた地鶏生産組合
- ◆ 畜産物市況 …… (8)
- ◆ 編集後記 …… (8)

優秀畜産表彰会受賞事例が決まる！ ～いずれも本県の畜産振興に貢献～

本年度の優秀畜産表彰会の優秀賞受賞事例が次の4事例に決まりました。各事例とも、それぞれの経営または地域で抱えている課題の解決に積極的に取り組み、優れた成果を上げているので、その取り組みについて紹介します。

経営部門（酪農経営） 株式会社 Moimoiファーム

後継者がいないため廃業する経営が多い中で、酪農に対して意欲を持つ若者が非農家出身でも経営に参画できるよう平成24年8月に3名の共同出資により設立されたもので、担い手の確保・育成に尽力しています。

- ・ 隣接する廃業牛舎を取得し、経産牛頭数を規模拡大前の38頭から65頭に増頭、生乳販売額が3,800万円から7,075万円に向上し、従業員3名の安定的な雇用が可能となった。
- ・ 連続水槽、細霧システム、トンネル換気、厚みと弾力性を備えた牛床マットの設置等カウコンフォートを重視した結果、経産牛処分率を14%と低く抑え、経産牛1頭当たり9,496kgという県の指標を上回る高い乳量を実現した。
- ・ 従業員とともに乳房炎防除対策検討会、分娩前の乳汁検査等を実施することにより、生乳中の平均体細胞数は17万個と少なく、平成20年にクリーンミルク生産農場に認定された。
- ・ 平成20年に酪農教育ファームの認証を取得し、消費者への酪農理解の促進を図っているほか、平成24年3月には牛舎周辺に消費者がくつろげる庭をつくる等の環境整備を実施した。
- ・ 株式会社化することで、高度な技術の継承と規模拡大に当たっての対外的な信用力の向上、補助事業の活用、資金調達が有利となった。



(フリーストール牛舎を新築し規模拡大)

経営部門（肉用牛経営） 山賀 治彦

昭和59年に新潟北部畜産基地に入植し肥育牛の規模拡大を行いました。その後は肥育技術の向上やコスト低減に取り組み、さらには生活費の節約に努め、自己資本比率の高い経営の実現に成功するとともに、にいがた和牛の生産拡大に努めています。

- ・ 廃業牛舎を低価格で取得し、肥育牛頭数を規模拡大前の56.4頭から約1.5倍の86.5頭に増頭、年間出荷頭数は32頭から51頭に増加している。
- ・ 優良な肥育素牛を吟味できる目、常に肥育牛を管理観察して最良の状態に飼養するという基本的なことを確実に実行し、飼料摂取量低下の早期発見及び適切な対処等によりトラブル発生を防止している。
- ・ 畜産基地入植時に償還を優先したことで資金繰りに苦労した経験を踏まえ、生活費を切り詰めて自己資金を蓄積したこと、きめ細かい飼養管理で所得向上に努めてきたこと等で牛枝肉卸売価格の変動や牛肉の放射性セシウム汚染問題による一時的な牛の出荷自粛に打ち勝てる強い経営体質（自己資本比率79%）につながった。
- ・ 平成23年に稲わら収集機を導入し、約4.5haの稲わらを収集して、約40%の粗飼料を自給している。



(管理が行き届いた清潔な牛舎内)

地域振興部門 株式会社 佐渡乳業

消費者から安全・安心な畜産物生産が強く求められている中、株式会社佐渡乳業は、島内の酪農経営にHACCP方式による衛生管理手法の導入を促進し、安心な牛乳生産・販売を通じて地域の活性化に取り組んでいます。

- ・ 島内で生産される生乳は島内の牛乳工場で処理・出荷されることから、島全体でクリーンミルク生産農場の普及に努めてきた。
- ・ 平成19年度に佐渡で初めて3農場がクリーンミルク生産農場に認定され、HACCP方式の衛生管理手法を取り入れた高品質生乳生産が重要であることから、島内全酪農家がクリーンミルク生産農場に認定されるよう気運を高めた結果、現在では佐渡島内のほとんどの生産者がクリーンミルク生産農場に認定され、乳質の改善につながった。
- ・ クリーンミルク生産農場の増加により、高品質生乳の生産量が増加したことから、平成21年5月からクリーンミルク生産農場の生乳のみを原料とするトキパック牛乳の販売を開始した。さらに、差別化するために容器はトキをかたどった斬新なデザインとし、消費者の関心を集め、販売促進につながった。また、同社で販売している佐渡バターは原材料が全て佐渡産であり、手作りの極上品として希少価値の高い商品となっている。



(空を飛ぶイメージのトキパック牛乳)
(佐渡乳業ホームページより)

地域振興部門 魚沼市自給飼料生産組合

酪農経営で自給飼料の生産拡大が求められる一方で、稲作農家では減反強化による収入の減少が課題となる中、魚沼市自給飼料生産組合は酪農経営と稲作農家をマッチングさせることに成功し、地域農業の課題を見事に解決しました。

- ・ 購入飼料に依存した酪農経営から脱却するために自給粗飼料の共同生産に新たに取り組み、耕作放棄地を活用した飼料用トウモロコシの生産を平成21年に6haから開始し、平成24年には栽培面積を11haに拡大した。
- ・ 平成22年から地域の稲作農家と連携して転作田を活用した稲発酵粗飼料の生産に取り組み、収穫面積は初年度の18.7haから平成24年には23.4haに拡大した。生産コストを低減するために、収穫時期の異なる飼料用トウモロコシと飼料用稲を組み合わせ、収穫作業は補助事業で導入した汎用型飼料収穫機1台で行っている。
- ・ 細断型ロールバル体系による高密度で発酵品質に優れたサイレージの調製に取り組み、年間を通じて品質の一定したサイレージを給与できるようになったことから、生乳生産性が向上し、組合員の所得向上につながった。
- ・ 地域の稲作農家が転作田を活用して生産した飼料用米の搾乳牛への本格的な給与を県内の酪農経営として初めて取り組み、購入飼料費を組合員全体で約700万円節減できる成果をあげている。
- ・ 稲作農家は飼料用稲、飼料用米、二毛作のそばを栽培することで、それぞれ水田活用所得補償交付金を受けることができ、所得向上につながった。



(飼料用トウモロコシ畑 (耕作放棄地活用))

**全国和牛能力共進会で1等賞を受賞！
～5年に1度の和牛オリンピック開催～**

5年毎に開催される和牛の改良成果を競う「第10回全国和牛能力共進会」が10月25日から29日までの5日間、長崎県佐世保市のハウステンボスをメイン会場に開催されました。

今回の大会は、「和牛維新！地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」をテーマに、和牛らしい体型や品位などを競う「種牛の部」と和牛の肉質・肉量を競う「肉牛の部」の2部門、全9区分に、全国38道府県から選抜された480頭が出品されました。

当県では、佐渡市から出品した種牛・若雌第2区の菊池哲也氏所有の「かなこ」、若雌第3区の梶井佐武郎氏所有の「めぐみ」が2頭とも見事に1等賞を獲得しました。

佐渡産の子牛価格は11月の家畜市場で、平均落札価格が5年ぶりに40万円台を回復しているため、今回の入賞を契機に、さらに改良を進め、評価の高い子牛生産の継続が期待されます。

また、肉牛・去勢肥育牛第9区に、村上市の遠山幸一氏所有の「鷹2」、新発田市の渡辺守氏所有の「津川134」が出品され、遠山氏が1等賞、渡辺氏が2等賞を受賞されました。

共進会全体の審査結果は、前回の共進会で上位を独占した宮崎県の出品牛が、口蹄疫の災禍を乗り越え、合計5区で優等賞1席を獲得しました。

今回は、5年後に宮城県での開催となりますが、今回よりも上位の成績が得られるよう、さらに改良が必要である。



(1等賞を受賞した「かなこ(左)」と「めぐみ(右)」)

**にいがた和牛肥育名人が上位独占！
～第57回新潟県肥育牛求評共励会～**

にいがた和牛の一層の品質向上を図り、肉用牛経営の安定に資することを目的とした「第57回新潟県肥育牛求評共励会」が、全国農業協同組合連合会新潟県本部主催で10月15日から17日に、東京都中央卸売市場食肉市場で開催され、当協会及びにいがた和牛推進協議会も後援しました。

今回出品されたのは36頭（うち雌牛9頭）で、うち33頭（91.7%）が枝肉格付4等級以上、19頭（52.8%）が5等級と全体的に品質が高く、市場関係者からも非常に高い評価を受け、にいがた和牛推進協議会設立後、10回目にふさわしい共励会となりました。

中でも、最優秀賞を受賞した時田 正氏を始め、優秀賞1席から3席までをにいがた和牛肥育名人が独占し、特に、優秀賞を全て雌牛が占め、優れた肥育技術が注目されました。これらの出品牛4頭の平均枝肉単価は2,559円と高く、日ごろの技術研鑽の成果を十分に発揮されました。

当協会からは、最優秀賞、優秀賞1席及び2席に入賞した3名に新潟県畜産協会会長賞を授与しました。

受賞者(敬称略)

| 受賞区分 | 氏名 | 出品牛性別 |
|-------|-------|-------|
| 最優秀賞 | 時田 正 | 去勢 |
| 優秀賞1席 | 和田 一男 | 雌 |
| 優秀賞2席 | 遠山 幸一 | 雌 |
| 優秀賞3席 | 成田 元 | 雌 |



(出品牛のセリ状況)

「にいがた和牛」の消費拡大の取り組みを紹介します。

にいがた和牛推進協議会では、にいがた和牛の消費拡大を図るため、様々な活動を行っておりますが、今年の秋から冬にかけて主催又は参加した3つのイベントを紹介します。

1 「畜産フェスタ2012」に参加

10月13日（土曜日）に恒例となった畜産フェスタが今年も新潟市西区の「新潟ふるさと村」を会場に開催されました。

新潟県畜産振興協議会が主催し、年に一度、10月中旬に畜産関係機関及び団体が力を合わせ、消費者に畜産の理解促進と畜産物の販売促進を目的として開催しているイベントで、当協議会は、専用ブースを設営して「にいがた和牛」のPRと卸売業者の協力を得て精肉の販売を行いました。

当日は、天候に恵まれ、家族づれを中心におよそ1万人（前年度比33%増）が来場し、用意したにいがた和牛の精肉パックは、閉店前に完売となる盛況ぶりでした。



（盛況だった「にいがた和牛」の販売）

2 うまさぎっしり にいがた和牛フェア〔冬の陣〕を開催

当協議会主催で11月27日、28日の両日、東京都「表参道・新潟館 ネスパス」において、首都圏における「にいがた和牛」の販売促進とPRを行うことを目的として、「うまさぎっしり にいがた和牛フェア〔冬の陣〕」を開催しました。

両日も木枯らしが吹くあいにくの天候でしたが5,280名（2日間計）と多くのお客様からご来場を頂き、にいがた和牛のPRができました。

フェアでは、①にいがた和牛の精肉パック販売、②にいがた和牛の試食（しゃぶしゃぶ）の提供、③にいがた和牛と他トップブランド牛の食べ比べ（アンケートを実施）、④パネル、リーフレット等によるにいがた和牛のPRを行いました。



（フェアでの「にいがた和牛」の販売）

3 にいがた和牛消費拡大大会を開催

11月26日に新潟市中央区のホテルにおいて、JA新潟中央会、JA全農にいがた県本部の主催、にいがた和牛推進協議会の共催、新潟県畜産協会、新潟県の後援による「にいがた和牛消費拡大大会」を昨年に引き続き開催しました。

この大会には、生産者、流通業者及び関係者等と招待された一般消費者合わせて300名近くが参加しました。

主催者を代表して、JA新潟中央会の今井副会長（当協会会長）が挨拶に立ち、「牛肉卸売価格の低迷や配合飼料価格の高騰で厳しい経営環境に置かれている肉用牛農家の現状を踏まえ、これまでも消費拡大の取り組みを行っているが、一層の消費拡大を図るため昨年に引き続き開催した。」と述べた。

引き続き、全国和牛能力共進会に出品した生産者等の表彰が行われた後、全農にいがた県本部の加藤畜産部長（にいがた和牛推進協議会幹事長）が、にいがた和牛の販売促進活動の紹介を行いました。

第2部の懇談会では、にいがた和牛肥育名人の入場の後、全農にいがた県本部の吉見県本部長（にいがた和牛推進協議会副会長）が、「生産者が精魂こめて育てた、安全・安心な にいがた和牛をいっぱい食べてもらいたい。」と開宴の挨拶を行いました。会場には、にいがた和牛のステーキやカレー、しゃぶしゃぶなど様々な料理が提供され、にいがた和牛肥育名人が消費者に対し、にいがた和牛の美味しさをPRしました。



（開宴の挨拶をする 吉見本部長（バックは肥育名人の面々））

飼養衛生管理の状況について

～ 家畜伝染病予防法に係る飼養衛生管理基準の遵守状況 ～

新潟県農林水産部畜産課

家畜伝染病予防法の改正により報告いただいている「家畜の飼養に係る衛生管理の状況(平成24年分)」がとりまとめられて公表されました。

全国と新潟県の概況は、下表のとおりです。

○ 飼養衛生管理基準の遵守状況(平成24年2月1日現在の報告とりまとめ)

| 項目 | 乳用牛 | | 肉用牛 | | 豚 | | 採卵鶏 | | 肉用鶏 | |
|--------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 全国 | 新潟県 | 全国 | 新潟県 | 全国 | 新潟県 | 全国 | 新潟県 | 全国 | 新潟県 |
| 防疫に関する最新情報の把握 | 92.5 | 98.5 | 85.9 | 96.6 | 91.1 | 99.4 | 95.0 | 100 | 96.8 | 100 |
| 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止 | 79.7 | 84.4 | 67.6 | 77.6 | 84.0 | 92.0 | 85.7 | 92.3 | 92.8 | 92.9 |
| 野生動物の侵入防止措置 | 92.5 | 97.8 | 87.1 | 98.1 | 84.4 | 92.4 | 87.7 | 89.2 | 92.0 | 95.6 |
| 衛生管理区域の衛生状態の確保 | 84.6 | 89.1 | 67.2 | 77.7 | 85.0 | 89.2 | 88.1 | 97.8 | 96.1 | 100 |
| 家畜の健康観察と異状時の対処 | 93.8 | 99.1 | 89.6 | 99.1 | 91.7 | 99.4 | 92.8 | 99.4 | 96.2 | 100 |
| 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管 | 60.9 | 44.2 | 43.1 | 35.1 | 58.9 | 45.2 | 66.6 | 78.4 | 80.4 | 76.5 |

数値は、各管理基準毎に設定されたチェック項目の平均値(%)

☆ 新潟県の成績は、おおむね全国平均を上回っているもの・・・

- 『感染ルート等の早期特定のための記録及び保管』の項目が、全国平均以下でした。
- 同項目は、全国的に平均値が低く、重点的に取り組んでいただく必要があります。
- また、降雪の時季を迎え、『衛生管理区域の衛生状態の確保』も課題になります。
 - ・ 看板、ロープやパイロン等を利用して、区域の境界を明瞭にする。
 - ・ 消毒槽や消毒機器のこまめな点検 等々

◎ 記録の習慣付けが大切です!



◎ 衛生管理区域の明確な区分



☆ 家畜伝染病予防法に係る飼養衛生管理基準は、

- ・ 乗車時のシートベルト着用と同様に、**家畜の所有者が守らなければならない事項です。**
- ・ また、遵守を徹底することで、伝染病の発生予防ばかりではなく、生産性の向上など、経営面でもより大きな効果が期待されます。

| | | | |
|-----------|--------------|----------------|------------------|
| 中央家畜保健衛生所 | 新潟市西蒲区旗屋686 | ☎ 0256-88-3141 | FAX 0256-88-3185 |
| 佐渡支所 | 佐渡市千種264 | 0259-63-2676 | 0259-63-4781 |
| 下越家畜保健衛生所 | 新発田市東新町1-7-6 | 0254-22-3067 | 0254-24-4022 |
| 中越家畜保健衛生所 | 魚沼市堀之内2914-2 | 025-794-2121 | 025-794-5400 |
| 上越家畜保健衛生所 | 上越市本城町5-6 | 025-522-9441 | 025-522-1724 |

※ 農林水産省 HP : http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/index.htmlでは、全国の衛生管理状況の詳細や優良取組事例等がご覧いただけます。



酪農経営

佐渡市徳和

信田 和彦



肉用牛経営

阿賀町八木山

渡辺 俊行



『同志とともに』

私は、佐渡で酪農をしています。

とは言っても、経産牛15頭程度の非常に小規模な経営です。

当然、収入も少なく、兼業で、昼間は勤めにも出ていましたが、昨年からは専業経営となりました。購入飼料の高騰により、厳しい情勢ですが、頑張るだけです。

現在、私が所属している組織に「新潟県酪農同志会」という組織があります。縁あって、今は私が会長をさせて頂いています。

この同志会の一番の事業は「ブラック&ホワイトショー」で、現在は2年に1回開催しています。

そのショーとは、乳牛の品評会ですが、品位があり、より機能的で、理想像に近い順に、出品牛に序列がつけます。

近年は、出品牛の頭数が減少していることが頭の痛い大きな問題となっています。

この問題は新潟県だけではなく、近県の同志の方々も、同様の問題を抱えているようです。

このような状況の中であって、昨年開催された「全日本ブラック&ホワイトショー」には、200頭を超える出品があり、全国にはまだ多くの同志がいるなと心強く感じました。

私も、この「全日本ブラック&ホワイトショー」に参加させて頂いたので、全国から集まった同志の方々と交流させて頂き、そのパワーを充電させて頂きました。

年々、モチベーションが下がる今日この頃ですが、同志の方々から頂いたパワーを源に、今後も頑張っていきたいと考えています。

『牛飼いを始めて』

私は、高校を卒業して工場に就職しましたが、その後、家業である牛飼いをしようと決めました。小さい頃、たまにエサくれや草刈りなどを手伝っていたこともあり、作業に関しては特に抵抗はありませんでしたが、休みがなく、大変であることも知っていました。しかし、それでも牛飼いになるという決意は変わらず、3年前に就農しました。

家は和牛一貫経営のため、就農してすぐ人工授精師免許の取得に行くことになりました。まだ牛のことがよくわからないまま講習に行ったため、ものすごく大変でしたが、頑張っただけで免許を取得することができました。

飼養管理では、父が肥育牛、自分が繁殖牛を担当しています。最初はそんなに難しくないと思っていたのですが、牛のことがわかってくるにつれて、牛の管理は難しいことを知りました。発情をちゃんと見つけられるかとか、子牛が下痢をしていないかとか、毎日、牛を見ないといけないことを実感しました。

人工授精師の免許を取得し、自分の牛に種付けをしたのですが、最初からうまくはいかないものですね。何頭もの牛を種付けしていくうちにそれぞれの牛の特徴がわかってきて、無事に種が付いた時は嬉しかったです。それでもうまくいかない時は、隣の牛舎で同じ一貫経営をしており、人工授精師の免許のある渡辺崇君にわからない事を聞いたり、実際に自分の牛を見てもらったり、種付け現場を実際に見てもらったりして、アドバイスをもらっています。

まだ、牛飼いを始めて3年しか経っておらず、これからも毎日勉強の日々ですが、1年1産を目標にして、分娩事故などがないように気をつけ、丈夫な子牛を育てていくことが目標です。そのために、様々な人たちの意見を聞き、参考にしながら頑張っていきたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

長岡市：菅畑にいがた地鶏生産組合（原定幸）

長岡市（旧栃尾市）の自然環境に恵まれた菅畑地域で、新潟県が味にこだわって開発した新潟トップ・ブランド「にいがた地鶏」の飼養に平成15年からいち早く取組み、新潟県補助事業により1千羽を飼養できる木造平屋建ての施設及び設備を新築しました。

年間2回転で2千羽を厳しい飼養管理マニュアルに基づき飼養しており、恵まれた気候風土、自然環境のクリーンチキン生産農場認定施設で安全・安心にこだわって生産した逸品です。地域愛称は虎千代鶏（上杉謙信の幼少名・虎千代時代に当地で修行）と言います。

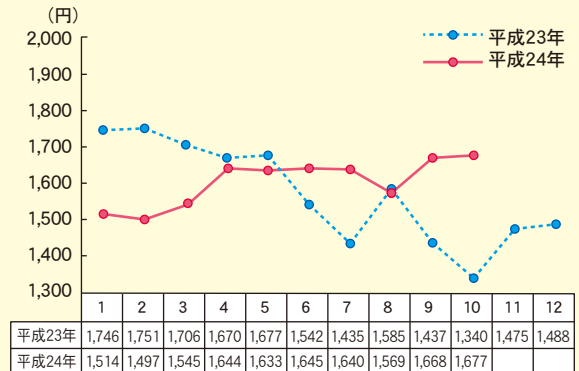
そして地域の特産品として、地域が連携して、にいがた地鶏の他、減農薬・有機米のコシヒカリや新鮮な山野菜、安全安心な地域食材を使った「農村レストラン&農産物直売館すがばたけ」を平成23年4月にオープンしました。

にいがた地鶏をメインに定食や手打蕎麦等、味にこだわって提供しています。味は、舌、目、環境、雰囲気、景観等の広い視点から生まれます。「美味しかったよ、また来るね。」を目標にリピーターの拡大、にいがた地鶏の需要の拡大を地域が連携し進めており、県内各地から、また県外や団体客も来るようになり、年間1千羽が地域で消費されるとともに宣伝に一役担っています。

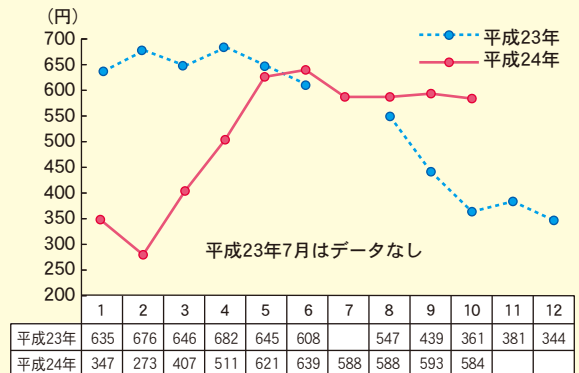


畜産物市況

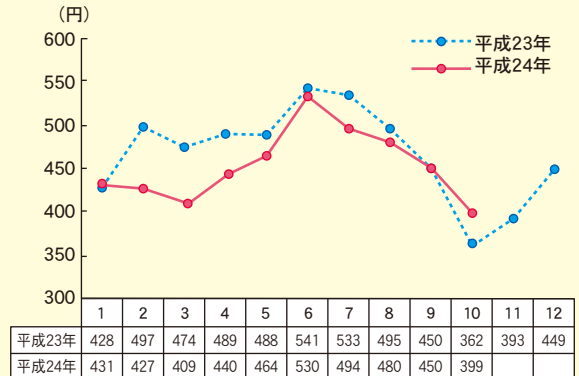
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

本年は、夏季の記録的な猛暑が続き、畜産経営は家畜の生産性低下による大きな影響を受けるとともに、米国における深刻な干ばつでトウモロコシ等の穀物の国際価格が高騰したことから、配合飼料価格の上昇というダブルパンチに見舞われています。

本号では、このような厳しい経営環境の中で、後継者の確保、にいがた和牛の生産拡大、安全・安心な畜産物の提供、自給飼料の生産拡大という今日的な課題を創意工夫により克服し、優れた実績を上げている個人、組織を紹介しました。

今後、多くの畜産経営者がこれらの経営や取り組みを参考に経営改善を図り、新潟県の畜産の発展につながることを心から願うものであります。

(佐藤 記)